

1000円以内で買えるかな？
「買い物」の場面を設定し、学んできた計算技能を日常生活で活かしてみようという気持ちを育む授業

なかよし4組（知的障害）特別支援学級 生活単元学習学習指導案

指導者 萩原 悠太（T1）
 生稲 裕子（T2）

1. 単元名 買い物名人になろう（2）

2. 単元について

（1）子どもの実態（2年生3名，3年生3名，6年生2名，計8名）

子どもたちは、算数ではこれまでどの学年も計算領域を中心に学習をしてきた。2年生は、新たに筆算という計算方法を学び、3年生はわり算や桁数が増えた筆算、6年生は分数の乗法、除法について学習をしてきた。子どもたちは、それぞれの単元での計算方法を習得すると、すらすらと計算問題を解くことができおり、計算に対しての自信もついてきた。そこで、学んだことを日常生活にも活かすことができるように、子どもたちの身近にある「買い物」の場面を取り上げ、体験的に子どもたちの計算技能の習得、またそれを日常生活で活かしてみようという気持ちを育むために、「買い物名人になろう（1）（2）（3）」という単元を設定した。

1学期に行った「買い物名人になろう（1）」では、「レシピ表を見て、1000円以内に収まるように計算をして、今日のこんだてを作ろう」という目標で学習に取り組んだ。

買い物名人になろう(1)においての子どもの実態

レシピ表を見て、食べ物を選ぶ。

〈レシピ表〉



ぎいりょう	1こ
ピーマン	1こ
たまねぎ	1こ
ウインナー	1こ
パスタ	1こ



ぎいりょう	1こ
じゃがいも	1こ
にんじん	1こ
たまねぎ	1こ
ぎゅうにく	1こ

子どもたちの算数の「見方・考え方」を働かせるために、レシピ表を見て1000円以内であれば何個でも食べ物を選んで良いという条件をつけた。あえて組み合わせが自由となる条件を加えたことで、子どもたちは1000円以内に収まる食べ物の組み合わせを夢中になって考えることができた。レシピ表も、子どもたちの好きな物を選ぶことで、より子どもたちの興味・関心が高まった。振り返りの場面では、友だちが作った献立を見ることで、1000円以内に収まる色々な組み合わせ方を知ることができた。

一つの食べ物に必要な材料の合計金額を計算する。

〈買い物メモ①〉

ぎいりょう	ねだん
ぎゅうきんがく	

+		+	
+		+	
+		+	

本学級の子どもたちは、見たものを正しく書き写すことが苦手であったため、買い物メモを作る学習を設けた。レシピ表に書いてある材料を読み、それを買い物メモに正しく書き写す。そして、商品カード箱からその材料を探し、カードに記載されている値段も書き写していった。その後は、1学期で学んだ筆算を用いて、材料の合計金額を計算した。繰り返し学習をしていくことで、材料や値段を正しく書き写すことができるようになってはきたが、まだ誤ったメモをする子どももいた。また、計算間違いも少なくなってきたが、1つの材料の値段を足し忘れる等、正確性に欠ける様子も見られた。そのため、「買い物名人になろう（2）」では、全ての商品の値段を足すことを意識することができるよう、買い物メモにチェック欄を設け、計算をしたらその欄にチェックするようにしていく。

〈商品カード箱〉



商品カード箱には、野菜コーナー、お肉コーナー等を設け、コーナーごとに材料カードを仕分けた。その結果、子どもたちはどの商品が何のコーナーにあるのかを理解することができた。実際にスーパーマーケットに行った際にも、子どもたちはどの商品が何のコーナーにあるのかを分かっていたので、商品を探すことは比較的スムーズにできていた。

選んだ食べ物の合計金額を計算する。

最後に、1000円以内に収まっているかどうかを確かめるために、筆算を用いて合計金額を計算していく。計算間違いは少ないが、合計金額が1000円を超えてしまい、あわてて1つの食べ物を減らしている様子が見られた。また、あと何円分買えるかどうかを計算できるメモも渡していたが、それを活用しようとしているのは6年生のみであった。

〈買い物メモ②〉

たべもの	ねだん								
ごうけいきんがく									

あとなん円ぶん、かえる？

-				

単元の最後は、館山市にあるスーパーマーケットに実際に買い物に行った。保護者に子どもたちを買ってきてほしい物を買い物メモに書いてもらい、「おつかい」という形で買い物をしてきたが、実際の買い物になると、同じ商品を複数買う際の計算に苦労したり、同じ品物でも種類が異なるものがあり、どれを買えば良いか悩む等、難しいところもたくさんあった。そこで、「買い物名人になろう(2)」では、実際の買い物の場面をより想定した学習をしていく。

「買い物名人になろう(1)」における実態	A児	B児	C児	D児	E児	F児	G児	H児
1円玉・10円玉・100円玉を使って、教師が指定した金額を出すことができる。	○	○	○	○	○	○	○	○
5円玉・50円玉・500円玉を使って、教師が指定した金額を出すことができる。	○	○	○	○	×	○	○	○
筆算を使って、複数の商品(どれも1つずつ買う)の値段の合計金額を出すことができる。 (例) 192円(人参の値段) + 213円(じゃがいもの値段) + 245円(玉ねぎの値段) = 650円	○	○	○	○	△	○	○	○
「1000-これまでの合計金額」の計算をし、残りいくら分買うことができるか計算することができる。 (例) 1000円 - 650円 = 350円	○	○	○	○	×	○	○	○
筆算を使って、複数の商品(同じ商品を2つ買うものもある)の値段の合計金額を出すことができる。 (例) 192円(人参の値段) + 192円(人参の値段) + 213円(じゃがいもの値段) + 245円(玉ねぎの値段) = 895円	△	△	△	△	△	△	○	○
スーパーマーケットに行き、買い物メモに、その商品の税込み価格の値段を書くことができる。	○	○	○	○	△	○	○	○
スーパーマーケットに行き、1人で買い物メモを見て、1000円以内に収まるように意識して買い物をするすることができる。	×	×	△	△	×	×	△	△

(○=できる, △=教師の支援があればできる, ×=できない)

(2) 教材観

「買い物名人になろう(1)(2)(3)」は、子どもたちの日常生活で身近な「買い物」の場面を設定している。「買い物」には、様々な教科の学習内容が含まれている。買い物をする際には、国語科の内容である、正しくメモをすること(買い物メモに商品の名前や値段を正しく書くこと)が必要になってくる。また、算数科の内容である、たし算、かけ算、ひき算を使って、合計金額を計算したり、おつりの計算をしたりする技能も必要である。このように、「買い物」には複数の教科の内容が含まれており、それを实际的・総合的に学習することができる題材である。また、「買い物」は、子どもたちの生活に身近であり、欠かすことができないものであ

る。しかし、子どもたちは自分だけで実際に買い物をした経験は少ない。そのため、「買い物名人になろう」という目標を設定することで、子どもたちの興味・関心を高め、主体的に学習に取り組むことのできる題材となると考える。

生活単元学習は、子どもたちが生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・組織的に学習するものであり、各教科等を合わせた指導の形態である。

本単元と他教科との関わり

生活単元学習

買い物メモを見ながら、1000円以内に収まるように計算をして、買い物をする事ができる。



算数科

- ・お金の種類を知ることができる。
- ・硬貨を使って、ちょうどの金額を出す。
- ・たし算、ひき算の筆算ができる。
- ・かけ算の計算ができる。
- ・かけ算の筆算ができる。
- ・概算ができる。

国語科

- ・買い物メモに書かれているものを正しく読むことができる。
- ・買い物メモに、値段を正しく書くことができる。
- ・自分の考えを相手に話すことができる。

本単元は、主に特別支援学校小学部学習指導要領 生活の内容に示された次の事項について指導するものである。

第3段階 ク 「金銭の扱い」

価格に応じて必要な貨幣を組み合わせるなどの金銭に関する学習活動を通じて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (ア) 日常生活の中で、金銭の価値が分かり、扱いに慣れること。
- (イ) 金銭の扱い方などの知識や技能を身に付けること。

また、小学校学習指導要領算数、国語の内容に示された次の事項についても関連して取り扱う。

・算数科

第2学年 A「数と計算」

- (2) 加法及び減法に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - (イ) 簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算の仕方を知ること。
- (3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - (エ) 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。

第3学年 A「数と計算」

- (2) 加法及び減法に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - (ア) 3位数や4位数の加法及び減法の計算が、2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。
- (3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - (ア) 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。

第4学年 A「数と計算」

- (2) 概数に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - (ウ) 目的に応じて四則計算の結果の見積もりをすること。

本単元では、2年生、3年生が新たに学んだかけ算を使い、複数の商品(同じ商品を2つ以上買う物もある)の値段の合計金額を求めていくことを通して、体験的にかけ算の使い方や良さに気付くことができるようにし

ていく。6年生は、4年生で学んだ概算を用いて、商品の値段を見積もって合計金額を計算していく。この学習を通して、大体の値段で見積もることの便利さや良さに気づき、買い物の場面以外でも活かすことができるようにしていきたい。また、その様子を2年生、3年生が見ることによって、上手に買い物をするためには、色々な工夫があると気付くことができるようにしていく。6年生も2年生、3年生にとっての良い手本となることで、計算に対してより自信をもつことができるようにしていく。

・国語科

〔第1学年及び第2学年〕「A話すこと・聞くこと」

A 話すこと・聞くこと

内容 イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。

国語科では、普段は個々の実態に合わせた個別学習をしている。そのため、本学級の授業では、全員の前で自分の考えを話すという場面があまり設定できない。自分の考えを相手に話すという経験は、子どもたちがこれから大きな集団の中で生活していく上で必要な力となってくる。本単元では、自分の買い物の良かったところ、もしくは上手いかなかったところを相手に伝わるように話す時間を設けている。8人という小集団の中で、自分の考えを話す経験をすることで、大きな集団の中へ行った際にも、自信をもって話せるようになってほしい。そのために、本単元では、本学級の子どもたち全員での学習を設定している。

(3) 指導観

本単元では、買い物名人になろう(1)を踏まえ、よりスーパーマーケットでの買い物を見据えた実践的な学習をしていく。

〔授業の前に〕

□児童が働かせるべき「見方・考え方」を理解している。

①スーパーマーケットでの買い物をイメージすることができるように、スーパーマーケットの会場を擬似的に作る。

本単元では、子どもたちが、スーパーマーケットの買い物をより具体的にイメージして学習に取り組むことができるように、買い物体験の学習の際には、なかよし4組の教室で行わずに、広さのあるオープンスペースで行う。そこに、スーパーマーケットの会場を再現し、子どもたちが、どこで何が売っているのかを熟知できるように、野菜コーナー、お菓子コーナー、レジ等の配置場所も同じようにする。商品の値段の感覚も身に付けることができるように、実際にスーパーマーケットで売られている商品と値段を入れた写真付きの商品カードを用意する。さらに、実践的な買い物学習をするために、同じ品物でも複数の種類を用意する。例えば、買い物メモに「ハム」と書かれていた場合、スーパーマーケットには、複数の種類の「ハム」が売っている。複数の種類を用意する(個々の実態に応じて、1種類の子どももいれば、3種類の中から選ぶ子どももいる)ことで、どの商品を買えば1000円を超えないか、考えながら買い物をする力を育てていきたい。

子どもたちが、スーパーマーケットに行った際に、見通しをもって買い物ができるように、実際の流れである①買い物メモを見て、1000円を超えないように計算をしながら商品を選ぶ。②合計金額を計算する。③レジに行く。という一連の流れを繰り返し学習し、パターン化する。

〔自分で取り組む〕

□児童が「見方・考え方」を働かせながら課題に取り組むことができるように、取り組むときの視点や思考の進め方を指導する。

②どのように計算を進めて良いのか視覚的に分かるように、A4の紙1枚に収めた買い物メモを用意する。

本単元では、複数の商品(同じものを複数個買う場合もある)の合計金額を計算する。そのため、1つの商品の複数個分の金額を計算する必要が出てくる。子どもたちは、これまでの学習では、複数の商品の中から選んで1こずつ買って来たため、複数個分の金額を計算することに初めは戸惑うだろう。そこで、どのように計算を進めて良いのかが視覚的に分かる買い物メモを用意する。個数が複数の場合は、かけ算を用いて計算をすれば良いことが視覚的に分かるように、買い物メモの欄に商品名(例:じゃがいも)⇒値段(例:130円)⇒個数(例:2こ)⇒合計金額(例:260円)の順番で欄を設ける。また、あと何円分買うことができるかを計算して、買い物をすることができるように、買い物メモにその欄を設ける。1学期は、あと何円分買うことができるかを計算できるメモを別に用意したが、それだと子どもたちにとって情報量が多く、メモを使って買

い物に取り組むことが難しかった。そこで、そのメモも買い物メモに含めて1枚にすることで、1000円以内に収まることを意識して、わかりやすく買い物を進めることができるようにしていきたい。

子どもたちは、これまでの学習で1つの商品を足し忘れることが多くあった。そのため、全ての商品の値段を足すことを意識することができるように、買い物メモにチェック欄を設け、計算をしたら、その欄にチェックしていくようにする。

6年生は、概算を用いて、合計金額を見積もる学習をするため、その手順が視覚的に分かるように、商品⇒値段⇒見積もった値段⇒個数⇒合計金額の順番で、買い物メモに書く欄を設ける。また、その見積もりの値段が正しかったかどうかを、最後に確認することができるように、正しい値段を求める欄も設ける。

〈2年生用ワークシート〉

〈3年生用ワークシート〉

〈6年生用ワークシート〉

The worksheets are structured as follows:

- 2nd Grade:** A table with columns for 'しょうりん' (cash), 'ねだん' (price), 'こすう' (quantity), 'ごうけいきんがく' (total price), and 'チェックらん' (check column). Below the table are calculation grids for 'あと何円分買うことができますか?' (How much more can I buy?).
- 3rd Grade:** Similar to the 2nd grade, but with a '見積もりの値段' (estimated price) column and a '正しい値段' (correct price) column.
- 6th Grade:** Similar to the 3rd grade, but with a '見積もりの値段' (estimated price) column and a '正しい値段' (correct price) column.

[まとめあげる]

□児童が学んだことを確実に身に付けるために、練習問題等に取り組んだり、「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすか考えたりする場面を設定している。

③目的意識をもって学習に取り組むことができるように、子どもたちと「買い物の極意」を作る。

「買い物名人になろう(1)」では、振り返りの時間に、一人一人にチェックシートを配り、自分の今日の買い物が上手いだったか、そうでなかったかを振り返る時間を設けた。また、チェックシートは同じ質問事項にして積み重ねることで、前回との比較ができるようにした。本単元では、個人内の振り返りを行った上で、全体でどのようなことに気をつければ良いかを話し合う時間を設ける。根拠をもって、「買い物の極意」を決めることができるように、その手がかりとして、振り返り用のチェックシートを黒板に貼り、一人一人の上手くできたこと、もしくは上手くできなかったことを板書していく。教師から、「買い物の極意」を伝えるのではなく、自分たちで「買い物の極意」を作ることで、より目的意識をもって買い物学習に取り組むことができるようにしていきたい。

チェックシート

- ・1000円以内におさめることができたか。
- ・計算を正しくすることができたか。
- ・時間内に買い物ができたか。

買い物の極意(例)

- ① あと何円分買うことができるかを計算する。
- ② 計算の足しわすれがないかをかくにんする。
- ③ 買い物メモにていねいな字で書く。

3. 単元の目標

【知識・技能】

【思考力・判断力・表現力】

【主体的に学習に取り組む態度】

たし算、ひき算、かけ算の筆算の計算をすることができる。

1000円以内に収まるように計算をして、買い物をすることができる。

1000円以内に収まるように計算をしようと、粘り強く取り組むことができる。

4. 全体指導計画（10時間扱い）

時	○本時の目標 ・活動内容 【評価】（方法）	指導形態
1 ・ 2 ・ 3	○筆算を使って、複数の商品（同じ商品を2つ買うものもある）の合計金額を出すことができる。 ・たし算やかけ算の筆算を用いて、1つの商品2個分の合計金額を計算する。 ・筆算を使って、商品全部の合計金額を求める。 【知・技】筆算を使って、複数の商品（同じ商品を2つ買うものもある）の合計金額を求めることができたか。 (観察・ワークシート)	一斉 個別
4 ・ 5 ・ 6	○あと何円分購入できるかを計算して、1000円以内に収まるように買い物をすることができる。 ・買い物メモを見て、商品をかごに入れる。 ・1000円（これまでの合計金額）を計算し、あと何円分購入できるかを計算する。 ・残りの金額内で、自分の好きな物を購入する。 【知・技】あと何円分購入できるかを計算することができたか。 (観察・ワークシート) 【思・判・表】1000円以内に収まるように買い物をすることができたか。 (観察・ワークシート) 【主】1000円以内に収まるように計算をしようと、粘り強く取り組むことができたか。 (観察・ワークシート)	一斉 個別
7 ・ 8 ・ 9 本時	○買い物体験をしながら、1000円以内に収まるように計算をして、買い物をすることができる。 ・買い物メモを見て、商品をかごに入れる。 ・1000円以内に収まるように計算をして、買い物をする。 ・良かったところ、もしくは上手いかなかったところを発表する。 【知・技】たし算、ひき算、かけ算の筆算を使って、商品の合計金額を計算をすることができたか。 (観察・ワークシート) 【知・技】商品の値段を見積もって計算（概算）をすることができたか。 (観察・ワークシート) 【思・判・表】1000円以内に収まるように買い物をすることができたか。 (観察・ワークシート)	一斉 個別
10	○スーパーマーケットに行き、1000円以内に収まるように買い物をすることができる。 ・買い物メモを見て、商品をかごに入れる。 ・実際の買い物で1000円以内に収まるように計算をして、買い物をする。 【知・技】たし算、ひき算、かけ算の筆算を使って、商品の合計金額を計算をすることができたか。 (観察・ワークシート) 【知・技】商品の値段を見積もって計算（概算）をすることができたか。 (観察・ワークシート) 【思・判・表】1000円以内に収まるように買い物をすることができたか。 (観察・ワークシート)	一斉 個別

5 本時の指導（9／10）

(1) 目標

○買い物体験をしながら、1000円以内に収まるように計算をして、買い物をすることができる。

A児 B児 C児	たし算やひき算の筆算、かけ算を使って、1000円以内に収まるように買い物をすることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
D児 E児 F児	たし算、ひき算、かけ算の筆算を使って、1000円以内に収まるように買い物をすることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
G児 H児	商品の値段を見積もって計算（概算）をし、1000円以内に収まるように買い物をすることができる。 (思考力・判断力・表現力等)